

行為要求発話の修辞機能分析 －親子会話におけるやり取りに着目して－

田中 弥生 居關 友里子
人間文化研究機構 国立国語研究所
{yayoi,iseki}@ninjal.ac.jp

概要

談話分析手法の一つである「修辞機能分析」は、発話機能の分類と、主語や主題の分類と述部の時制の分類の組み合わせから修辞機能と脱文脈度を特定するものである。本研究は親子会話の発話に付与された談話行為情報のうち行為要求に分類されている発話の修辞機能を確認して、修辞機能分析と談話行為情報との関係を明らかにすることを試みた。その結果、典型的な行為要求の修辞機能だけでなく、間接的な表現がさまざまな修辞機能として用いられており、修辞機能分析の分類法によってこれらの観察ができることが明らかになった。

1 はじめに

談話分析手法の一つに、脱文脈度の観点による「修辞機能分析」の分類法 [1] がある¹⁾。これはメッセージという分析単位（概ね節に相当）ごとに、発話機能、および主語や主題（空間的距離）と述部の時制（時間的距離）の分類の組み合わせから修辞機能と脱文脈化指数が特定されるもので、親子会話における脱文脈度の様子 [5] や、児童作文や高齢者談話における話題やテーマによる談話の特徴 [6, 7] などの分析が行われている。

会話の中で交わされる発話は何らかの行為を行うものだという考え方は今日一般的なものであり、これは修辞機能分析にも反映されている。例えば相手に物の受け渡しを要求する際に使用する発話「お醤油を取って」などは、同じ時空で相手に行為や物を要求または提供する発話として発話機能は「提言」が付与され、修辞機能は【行動】、脱文脈化指数は<01>に分類される²⁾。一方で、依頼をはじめ、相手

に何らかの要求を行うやり取りについては、そこで用いられる戦略 [8] や文化の違い [9] など、様々な要因が関係しているとされ、私たちの日常生活では、同様の要求を行うに際し「お醤油かけたいな」などといった表現を選択する場合もある。この場合、修辞機能分析の分類法では発話機能は「命題」となり、修辞機能と脱文脈化指数は【行動】<01>とは異なる値が付与される。では、修辞機能分析は、会話の中で発話を通して行われる行為とどのような関係を結んでおり、どのような側面を捉えることが可能なのだろうか。本研究では、会話で交わされる行為のうち「相手に物事を依頼する、指示する、促すなどといった行為（以下まとめて「行為要求」とする）」に着目し、これらを担う発話がどのような修辞機能に分類されるかを観察することを通して、修辞機能分析の可能性について考察する。今回は、行為要求に多様な修辞機能が観察された親子間の会話を扱う。

2 分析方法

分析には、幼児を中心とした日常生活に生じた会話を扱った『子ども版日本語日常会話コーパス』(2.1 節) を用いる。ここに含まれる幼い子どもと保護者の間のやり取りでは、保護者から子どもへ、あるいは子どもから保護者へ、何らかの行動を求めたり、特定の行動を抑制しようとしたりといった振る舞いが多く観察された。これらのやり取りに対して付与した談話行為情報 (2.1.1 節) を参考に、行為要求に相当する発話を取り出し、付与されている修辞機能の特徴について分析を行う。

2.1 分析データ

『子ども版日本語日常会話コーパス』(CEJC-Child) は、国立国語研究所共同研究プロジェクト「多世代会話コーパスに基づく話し言葉の総合的研究」

1) 選択体系機能言語理論の枠組みの英語談話分析手法である Rhetorical Unit Analysis [2] を日本語に適用した修辞ユニット分析 [3, 4] を日本語文法の枠組みで修正している。

2) 以下、本文では修辞機能を【】で、脱文脈化指数を<>で示す。

(2022～2027 年度) にて現在構築中である (2025 年にモニター版の公開を予定, [10])。日常生活の中で生じる子どもを含むコミュニケーション場面を扱った音声・映像付きコーパスであり, 本研究では兄弟 (長男かい 4 歳 4 カ月～5 歳 1 カ月, 次男ゆいと 1 歳 5 カ月～2 歳 3 カ月, いずれも仮名) と保護者によるやり取り 1 時間 43 分のデータを扱う。収録対象となっている場面は自宅での遊び, 食事, ものづくりの場面である (Y010_018a, Y010_021c, Y010_025a, Y010_027, Y010_030, Y010_038a)。

2.1.1 談話行為情報

談話行為情報は, 会話内でなされた各発話で行われている行為や談話の管理に関する機能などを扱ったものである。本研究では幅広い日常会話場面を扱った『日本語日常会話コーパス』[11] に適用した枠組み [12] を参考に, 分析対象場面に対して基本的な談話機能のタグ付与を行い, このうち行為要求に相当する談話機能として「依頼系」およびそれに対する反応である「依頼系への対処」のタグが付与された発話を抽出した。依頼系は依頼に加え, 提案, 指示, 促し, 命令といった行為を広く含むタグである。タグは CEJC-Child の転記で用いる単位の一つ, 発話単位 [13] に対して付与した。

2.2 修辞機能分析の分類法

修辞機能分析の分析単位であるメッセージは概ね節に相当する³⁾。メッセージは「定型句類」(相槌, 挨拶, 定型句, 節の形でないものなど), 「主節」(単文, 及び主節), 「並列」(従属度の低い従属節), 「従属」(従属度の高い従属節), 「引用」(“と思う”などで引用されている部分) に分類し, 「主節」「並列」「引用」について, 発話機能・時間要素・空間要素を分類する。表 1 に示したように, これらの組み合わせから修辞機能と脱文脈化指数が特定される。【行動】<01>がもっとも文脈(コミュニケーションの場である「いま・ここ・わたし」)に依存した(脱文脈度の低い)表現で, 【一般化】<14>がもっとも脱文脈度の高い表現である。

発話機能は「提言」か「命題」に分類する。「提言」は, 品物・行為の交換に関する提供・命令で, 基本的には同じ時空に存在する相手に働きかけたり, 会話者同士の行為にかかわる「この花見て!」「ハサミをどうぞ」のような発話内容が該当し, 【行動】

3) 連体修飾節は独立したメッセージとして扱わない。

表 1 発話機能・時間要素・空間要素からの修辞機能と脱文脈化指数の特定

定義	高空間距離のレベル ↓ 低						一般化 14
状況外		報告 09	状況外回想 10	予測 11	推量 12	説明 13	
状況内		実況 02	状況内回想 03	状況内予想 05	状況内推測 06	観測 08	
参加	行動 01			計画 04		自己記述 07	
空間要素	わたし	時間距離のレベル ← 低 → 高					
時間要素		現在	過去	未来意志的	未来非意志的	仮定	習慣・恒久
発話機能	提言	命題					

<01>と特定される。「命題」は, 情報を交換する陳述・質問で, 「この蕾を見てほしい」「私はお花が大好き」「このお花かわいい」「桜ってバラ科なんだ」などが該当する。発話機能が「命題」であるメッセージは, 時間要素と空間要素を認定し, その組み合わせによって修辞機能と脱文脈化指数が特定される。時間要素は, 話者のいる時間「いま」を基準として, メッセージで表現されている出来事がいつ起こったかを示す要素である。基本的にテンスや時間を表す副詞などによって表現され, 「現在」「過去」「未来意志的」「未来非意志的」「仮定」「習慣・恒久」⁴⁾に分類する。空間要素は, 話者のいる場所「ここ・わたし」を基準として, メッセージの中心となる語句との空間距離を示す要素で, 主語, 主題, 述部の主体から判断し, 「参加」「状況内」「状況外」「定義」に分類する。

3 分析

3.1 修辞機能別の例

本節では, 行為要求に相当する談話行為情報が付与された発話の修辞機能と脱文脈化指数を確認するまず, 典型的な行為要求である, 修辞機能【行動】脱文脈化指数<01>のメッセージの例を示す。いずれも母から子どもへの発話である。

- (1) ちょっとそれやらないで。(Y010_038a 1345.47⁵⁾)
- (2) じゃあこっちヨーグルトさん混ぜてください。(Y010_038a 214.465)

【行動】<01>以外には, 【実況】<02>, 【計画】<04>, 【状況内予想】<05>, 【自己記述】<07>, 【観測】<08>,

4) 「習慣・恒久」には, 属性, 嗜好, 評価も含む。
5) 括弧内に会話 ID とその発話の開始時間を示す。

【報告】<09> が用いられていた。

【実況】<02>に分類された(3)は、次男が手に持ったおもちゃの泡立て器をボウルの中に入れようとしたのに対する長男の発話、(4)は、紙飛行機を作っているときの母から次男への発話、(5)は、長男が粉を混ぜているボウルの中に母がジャムを入れながら発話している。「～てはだめ」や、「～していい」「～してもらおう」という表現は、行為要求で多く用いられるが、発話機能「命題」、時間要素「現在」、空間要素「参加」の組み合わせから【実況】<02>と特定される。

(3)入れちゃだめ.: (Y010_038a 247.155)

(4)ゆっちゃんも遊んでいいよ. (Y010_021c 506.622)

(5)じゃちょ先にジャムを入れて混ぜといてもらおっかな. (Y010_038a 650.623)

(6)は食事中に床に寝っ転がった長男に向けた母の発話、(7)は食事中に椅子の上に立ち上がった長男に向けた父の発話で、その場の状況を述べることで、注意している。(1)～(5)に比べて直接的でないため、聞き手である子どもの理解力が求められる。

(6)かいくん ご飯中です.: (Y010_025a 582.95)

(7)かい 食べ終わってないよ. (Y010_030 1367.109)

【計画】<04>および【状況内予想】<05>の例は、本分析データでは単独で用いられているものがないため、3.2節にて示す。

(8)(9)は【自己記述】<07>の例で、長男に話しかけているので空間要素は「参加」である。時間要素について、(8)の食卓のお皿の配置についての「持ってたらしい」、(9)の「しないでほしい」という述部を、その場のみでなく常に母がそう思っていることとしてとらえ、「習慣・恒久」と認定し、【自己記述】<07>が特定される。

(8)かいちゃん こっちに持ってたらしいと思うよ. (Y010_030 777.64)

(9)かい 危ないことしないでほしいな. (Y010_038a 1530.426)

【観測】<08>の例は以下のものがある。(10)は、母と兄弟がお月見団子を作る場面で、長男の丸めたお団子を見た母の連続した発話である。作っているお団子を主語と考え空間要素「状況内」、「おっきくてもいい」「ちっちゃくてもいい」という述部から時間要素は「習慣・恒久」で、【観測】<08>が特定され

る。(11)は、シール遊びをしている際、シールを床に貼ろうとしている次男への母の発話である。「貼らないでほしい」という述部を常に母が思っていることととらえ、時間要素「習慣・恒久」で、「シール」をこのメッセージの主題と考え空間要素「状況内」と認定し、【観測】<08>と特定されている。

(10)Y010_027 70.943～73.893

もう気持ちおっきくてもいいかな. 【観測】<08>

ちっちゃくてもいいけど. 【観測】<08>

(11)Y010_021c 830.034～832.607

床には貼らないでほしいんだな.

シール. 【観測】<08>

(12)は【報告】<09>の例で、父が次男に、皿に残ったパスタソースをパンにつけて食べさせている。「食べる」という述部から時間要素「現在」、一般にとられる食事方法を述べる発話と聞けるため、主語は「(一般の)人は」と復元され空間要素「状況外」と認定し、【報告】<09>が特定される。

(12)Y010_030 768.777～774.814

これさ: このパスタの: クリームを
こう付けて食べる. 【報告】<09>
こうやって.

3.2 行為要求が連続する例

続いて、行為要求の発話が連続して生じている場面を取り上げる。

(13)は、長男の七五三の着物の着付けを練習したい母の発話で、協力を依頼していると考えられるが、【状況内予想】や【計画】による補足によって、長男のやる気を促している様子がうかがえる。

(13)Y010_030 985.18～995.124

このあとさ: かいくん.

あの七五三のお洋服をちゃんと着れるか

ちょっと練習していいですか?. 【計画】<04>

お父さんも一緒にやるからさ. 【状況内予想】<05>

みんなでやろう. 【計画】<04>

(14)は、食卓の椅子の上に立っている兄弟と母のやり取りである。母が「座って」と兄弟に言うものの、兄弟は座らない。母は続けて「お尻とんしてほしいな」という発話を行い、弟はその後に「とん」と言いながら椅子に座る。

(14)Y010_030 1141.704~1149.83

母 みんな座って. 【行動】<01>
母 座って. 【行動】<01>
母 座っててよ. 【行動】<01>
長男 座ってるよ. ((立ったまま))
母 うん.
長男 座ってるよ. ((立ったまま))
母 うん.
母 お尻とんしてほしいな. 【実況】<02>
次男 とん. ((勢いよく座る))

(15) は、白菜を食べられないと訴える長男と、食べさせようとする母のやり取りである。白菜を残さず食べさせるためにまず「(φ=あなたは)食べられる」【自己記述】、「さっきたべてた」【実況】によって励まし、「クレープ買いに行けないよ」というその後の楽しみの【計画】を思い出させることで意欲を高めていると考えられる。

(15)Y010_030 1397.303~1412.397

母 食べられる. 【自己記述】<07>
母 さっき食べてたよ:. 【実況】<02>
長男 食べない.
母 いけるいける:. 【実況】<02>
長男 いけない.
母 (笑)
母 頑張って. 【行動】<01>
母 あー. 降りないで. 【行動】<01>
母 クレープ買いに行けないよ. 【計画】<04>
長男 <叫び声>
母 (笑)ちゃんと座ってください. 【行動】<01>

(16) は、お菓子作り中に、次男が手に持ったスプーンをウェットティッシュで拭こうとするのに気づいた母の発話で、とっさに直接的な【行動】を発話した後、【観測】【実況】で補足している。

(16)Y010_038a 1344.459~1351.339

あー. ゆっちゃん.
ちょっとそれやらないで. 【行動】<01>
これはよくない. 【観測】<08>
あ. これもうだいじょぶだいじょぶ.
スプン そうそこに置いとこう. 【実況】<02>

4 考察

3節で見たように、行為要求の際に用いる表現には「～して・しないで(ください)」などの直接的な表現の発話機能「提言」【行動】<01>だけでなく、状

況を述べる【実況】<02>によって参加者の現在の状況を指摘したり、【自己記述】<07>で心情を述べたり、あるいは一般的に望ましい・望ましくないといわれる状況などを【観測】<08>として共有するなど、さまざまな修辞機能が利用可能であることがわかる。これらの表現を用いることは、発話を向けられた子どもが自身で状況をもとに望ましい行動を判断したり、要求された行為とその理由の間の関係を見出し納得の上で行動したりなど、その場限りの行為要求に応じさせるだけでなく、今後生じる状況での自立的な行動を促すことに繋がるものと考えられる。また、(14)では「座って」(【行動】<01>)と数回言ってもきかなかった兄弟に対し、母は「お尻とんしてほしいな」(【実況】<02>)という表現に変更を行っている。これを聞いた次男は「とん」という発話を叫びながら勢いよく椅子に座っており、母親の変更後の発話が次男の振る舞いを引き出したことがわかる。このように、行為要求への反応を引き出すために、それぞれの発話に対する子どもの反応に合わせて修辞機能の異なる発話を組み合わせるという方略も使用され、反応を得ることに成功している例も実際に観察された。

このような行為要求の多様な表現はこれまでも研究されている[14]が、修辞機能分析の分類法を用いることによって修辞機能と脱文脈度という観点から整理し、表現の違いを機能の違いとして確認することができる。

5 まとめ

本研究では、行為要求を担う発話がどのような修辞機能に分類されるかを観察し、相互行為の分析に修辞機能の観点を利用することの可能性について検討した。親子間のやり取りで使用されている修辞機能を確認した結果、典型的な行為要求の修辞機能【行動】だけでなく、幅広い修辞機能が観察され、他者への働きかけに用いる表現の工夫が修辞機能分析の分類法を用いることによって捉えられることが明らかになった。

本研究ではCEJC-Childのデータを分析対象としたため、親子特有の特徴が修辞機能に影響している可能性が考えられる。同様の分析を成人同士の会話についても加えることによって、参加者間の関係や配慮のあり方、教育的志向など、どのようなコミュニケーションの要素を修辞機能分析が捉え得るのかについても検討を進めていきたい。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP23K00569, JP22K13109 および国立国語研究所共同研究プロジェクト「多世代会話コーパスに基づく話し言葉の総合的研究」の助成を受けたものです。

参考文献

- [1] 田中弥生. 修辞機能と脱文脈化の観点からの日本語談話分析. 博士論文. 東京大学, 2022.
- [2] C. Cloran. **Rhetorical units and decontextualisation: An enquiry into some relations of context, meaning and grammar.** PhD thesis, University of Nottingham, Nottingham, 1994.
- [3] 佐野大樹. 日本語における修辞ユニット分析の方法と手順 ver.0.1.1: 選択体系機能言語理論 (システムック理論) における談話分析 (修辞機能編). <https://researchmap.jp/kotonoha/資料公開/>, 2010.
- [4] 佐野大樹, 小磯花絵. 現代日本語書き言葉における修辞ユニット分析の適用性の検証 - 「書き言葉らしさ話し言葉らしさ」と脱文脈化言語 文脈化言語の関係 -. 機能言語学研究, Vol. 6, pp. 59–81, 2011.
- [5] 田中弥生, 小磯花絵. 親子の食事場面での話題内容と脱文脈度. 人工知能学会研究会資料 言語・音声理解と対話処理研究会, Vol. 100, pp. 59–64, 2024.
- [6] 田中弥生, 佐尾ちとせ, 宮城信. 児童作文の評価に向けた脱文脈化観点からの検討. 言語処理学会 第 27 回年次大会 発表論文集, pp. 750–755, 2021.
- [7] 田中弥生, 小磯花絵, 江口典子, 大武美保子. 共想法による高齢者談話における修辞機能と設定テーマとの関係. 人工知能学会研究会資料 言語・音声理解と対話処理研究会, Vol. 98, pp. 25–30, 2023.
- [8] 熊谷智子. 依頼の言語行動におけるストラテジーの展開構造. 国立国語研究所創立 50 周年記念 研究発表会資料集: 歩こう日本語の世界を, 1998.
- [9] 槌田和美. 日本人学生と韓国人留学生における依頼の談話ストラテジー使い分けの分析 - 語用論的ポライトネスの側面から -. 小出記念日本語教育研究会論文集, 第 11 巻, 2003.
- [10] 小磯花絵, 石本祐一, 居關友里子, 江口典子, 柏野和佳子, 川端良子, 田中真理子, 田中弥生, 西川賢哉. 『子ども版日本語日常会話コーパス』モニター版の概要. 言語資源ワークショップ発表論文集, 第 1 巻. 国立国語研究所, 2024.
- [11] 小磯花絵, 天谷晴香, 居關友里子, 泰如, 白田, 和佳子, 柏野, 良子, 川端, 弥生, 田中, 康晴, 伝, 賢哉, 西川, 友香, 渡邊. 『日本語日常会話コーパス』設計と構築. 国立国語研究所論集, Vol. 24, pp. 153–168, 01 2023.
- [12] Yuriko Iseki, Keisuke Kadota, and Yasuharu Den. Characteristics of everyday conversation derived from the analysis of dialog act annotation. **2019 22nd Conference of the Oriental COCOSDA International Committee for the Co-ordination and Standardisation of Speech Databases and Assessment Techniques (O-COCOSDA)**, pp. 1–6, 2019.

- [13] JDRI. 発話単位ラベリングマニュアル version2.1. 2017. <http://www.jdri.org/resources/manuals/uu-doc-2.1.pdf>.
- [14] 日本語記述文法研究会 (編). 現代日本語文法 4 第 8 部モダリティ. くろしお出版, 2003.